

# みんなちがって、みんないい。

南中図書館だより 9月号

わたしが両手をひろげても、  
お空はちっともとべないが、  
とべる小鳥はわたしのように、  
地面をはやくは走れない。

わたしがからだをゆすっても、  
きれいな音はでないけど、  
あの鳴るすずはわたしのように  
たくさんうたは知らないよ。

すずと、小鳥と、それからわたし、  
みんなちがって、みんないい。

金子みすゞ / 作 「わたしと小鳥とすずと」

体育祭・文化祭など、イベント目白押しの9月が始まりました。

さて、今年の夏の注目は、なんといっても「TOKYO 2020」!  
オリンピックでの、日本選手の活躍が記憶に新しいですね。  
現在、パラリンピックが開催中(9月5日まで)です。  
まだまだ「あつい夏」は終わりません。みんなで応援をしましょう!



雑誌『Number』  
最新号の特集は、  
「TOKYO 2020」です。



「彼らは、皆不自由な身体をもちながらも厳しい競技の世界に身をおくことによって、自らを鍛え、常に一歩上への挑戦を続けている。そこには、障がい者という範囲を超えた人間としての魅力にあふれた輝きが存在する。」 <本文より抜粋>

『パラリンピック・アスリート』

清水 一二 / 写真 中央法規出版 780/シ



「張りあう必要はありません。障がいのある選手も、ない選手も、それぞれのステージで努力してきた成果を出せばいい。そこには、なんのちがいもないんです。」 <本文より抜粋>

『みんなちがって、それでいい』

重本 沙絵 / 監修 ポプラ社 782/ミ



「人助けやボランティアという意識はない。ただほんの少し手を貸しているだけ。あたりまえのこと」という姿勢であり、活動を長年続けているのは、「自分自身も楽しく、元気をもらっているから」という言葉です。 <本文より抜粋>

『伴走者たち 障害のあるランナーをささえる』

星野 恭子 / 著 大日本図書 369/ホ



「スポーツを始めた人は、1年たつと性格が変わる。笑顔が増えるんです。障がいがあっても、前向きになり、ダンスや絵をやったり、旅をしたりという人が自分の身近に生まれています。彼らは僕の宝です。」 <本文より抜粋>

『義肢装具士になるには なるにはBOOKs 146』

益田 美樹 / 監修 ペリかん社 494/マ





図書館だより de

Bibliobattle

# ビブリオバトル!

この本を、  
**「推し」**ます!



みなさん、第3回(7月)も参加してくれてありがとう!

7月20日に行った開票の結果、『マイクラフト』が接戦を制し、  
1学期最後の「チャンプ本」に決定しました!

**A**

「この『三体』という本は、  
今、世界で大ヒットしているSF小説です。  
内容は少し難しいけれど、読んでいくにつれ、  
慣れていくので、何回もくりかえし読んでみて  
下さい。」 (3年生)



書名:『三体』  
作者名:劉 慈欣



2学期、最初の「推し本」は  
こちらの5冊です!  
投票よろしくお願いします!



**D**

「主人公の更紗は、突然、両親の元から  
伯母に引き取られてしまいます。  
そこでの生活はとても辛く、ついにいつも公園に  
いる男の人について行ってしまいます。  
この本は展開が気になって、ページをめくる手が  
止まりません! ぜひ、読んでみて下さい。」

(2年生)



書名:『流浪の月』  
作者名:風良 ゆう

**B**

「僕の推し本は『風のヒルクライム』と  
いう本です。この本は、たくさんの人たちに  
支えてもらいながら、自転車ロードレースで  
ゴールを目指す本です。この本の見応えは、  
力を合わせてゴールを目指すところです。」

(1年生)



書名:『風のヒルクライム』  
作者名:加部 鈴子

**E**

「この本は、『恐怖の手紙』や『悪魔の  
ささやき』、『予知夢』などのシリーズがあります。  
1冊の本の中に約24話分あり、3分で読める  
ショートストーリーです。ラストで「まさか!」と思う  
展開が待っています。ぜひ読んでみて下さい。」

(1年生)



書名:『ラストで君は「まさか!」と言う』  
作者名:桐谷 直 ほか

**C**

「この本は、『君の臍臓をたべたい』など  
の作品を書いた、住野よるさんの最新作です。  
少し抜けている主人公、三歩さんぽの日常が描かれて  
います。とても明るい作品で、読んでいるこっち  
まで元気になれます!」 (3年生)



書名:『麦本三歩の好きなもの』  
作者名:住野 よる

